

学籍台帳からの証明書発行問題を解決！

# 古い台帳デジタル化 と Microsoft Word<sup>®</sup>で証明書発行



成績台帳・学籍簿をデジタル化して  
ワードで証明書発行を簡単に！



データ化されていない卒業生の単位取得証明書、成績証明書、卒業証明書の発行作業は煩わしくありませんか？

学籍簿、成績台帳、当時の学則やカリキュラムまで、複数の資料を調べるのは結構大変ですよね？

**このような声に、創文社はお応えします！**

- ・ 親身な導入コンサル、安心の秘密保持契約
- ・ 台帳等リソースの調査による、情報真偽確認とデータ補完提案 **注目!**
- ・ データの可搬運用性を重視した、Microsoft 社 Word<sup>®</sup> 文書化
- ・ データ差し込みによる氏名・評価・単位が入った証明書ワード文書の生成
- ・ データと台帳の整合性確保

**導入事例インタビューも掲載しました!!**

有限会社 **創文社** **ご相談・お見積りはお気軽にどうぞ**  
☎ **03-3491-8321** <http://sobun.co.jp> 「お問い合わせ」  
でもお待ちしております。

# こんな風に台帳デジタル化を進めます

## 1. 学籍簿台帳と過去の学籍簿システムを調査します

年度ごとの台帳を、科目名、カリキュラム名から学籍簿の年度と体裁別に分類します。過去システムのデータから生成された学籍簿も対象です。



## 2. 当時の学則、カリキュラム等の資料を確認します

1で分類された台帳とその年度の学則・監査資料に含まれる当時のカリキュラム資料（授業計画等）を照らし合わせ、単位取得の授業時間数と、学則に定義される科目と学籍簿上の科目名を照合・整理します。



## 3. 学籍簿のデータ入力とチェック

1, 2で整理された情報を元に、エクセルの入力用テンプレートを作成し、デジタル化されていない台帳を入力します。過去の学籍簿システムのデータは統合します。



## 4. 点数・評価のチェック

学籍簿上の点数・評価は、記入者ミスや記入省略、留年・退学者の年度持ち越しなど多様なチェック項目を含んでいます。3. で入力されたデータからこれらの矛盾をチェックし、当時の卒業生名簿もチェックして点数・評価の再評価を当時を知る関係者の意見を元に辻褄を合わせていきます。



## 5. 証明書フォーマットの確認とテストプリント

4の点数・評価が済んだデータは証明書の発行用データとして、ワード文書のテンプレートに流し込み、証明書を発行します。外字等の問題も個別に対処します。



## 既存の学籍システムとの関係をどうする？

既存の学籍システムへ統合するか

年度で区切って、既存のシステムと住み分ける事になります。

詳しくはご相談ください。

# 私達はこんな風に台帳をデータ化しました

## 大東文化学園が、閉校した専門学校の学籍台帳をデジタル化して証明書を発行するまで

学校法人大東文化学園は、50年以上の永きに渡り、2012年3月まで医療系の専門学校である大東医学技術専門学校を運営していました。専門学校閉校後の卒業証明書や成績証明書の発行業務は、法人本部の総務部総務課が引き継ぎました。本インタビューは、大東医学技術専門学校の学籍台帳等のデータ化、続けて開発した「証明書発行システム」による証明書発行業務を開始するまでの道のりを、ご担当である総務部総務課の小笹、関屋両氏へのインタビューにより解き明かすものです。

### Q 大東文化学園はどのような背景をもつ学校法人ですか？

学校法人大東文化学園は、「東西文化を融合して、新しい文化の創造を目指す」という建学の精神のもと、現在は大東文化大学、大東文化大学第一高等学校、大東文化大学附属青桐幼稚園の3つの学校を設置しています。学園の中核をなす大東文化大学は、1923年（大正12年）当時の国会にあたる帝国議会の決議によって創設された、大東文化協会が設置する大東文化学院を前身とし、中国学、日本文学、書道などの分野で比類ない伝統と歴史を誇ってきました。今日では人文・社会科学系領域だけでなく、スポーツ・健康科学系の領域までもカバーする、8学部20学科を擁する総合大学へと発展し続けています。また、創設以来、中国やアジアに強い大学として世に認められてきましたが、今日では環太平洋、さらには全世界に国際交流の輪を広げるなど、創設の理念「東西文化の融合」は脈々と受け継がれています。



大東文化学園 総務部 総務課  
小笹太郎さん

### Q 大東医学技術専門学校には2つの学科があったと聞きました。その特徴はどのようなものでしたか？

「接骨院」や「整骨院」という施術所を開業できる「柔道整復師」資格者を養成する「柔道整復科」と、病院などの医療機関において種々の臨床検査を行う技術者である「臨床検査技師」資格者を養成する「臨床検査科（旧衛生検査科）」の2つの学科がありました。設立については、昭和35年に「大東柔道整復専門学校」という名称でまずは柔道整復科が開設されました。柔道整復科は夜間部の学科として社会人を多く受け入れていました。（後に昼間部も開設）

もうひとつの臨床検査科は、昭和36年に衛生検査科としてスタートしました。これは当時衛生検査技師法等の関係法規が施行されたばかりで養成施設の数少なく、病院等で衛生検査技師が不足している等社会的な要請があったためです。臨床検査科の開設を経て、校名は「大東医学技術専門学校」となりました。閉校の検討と並行して臨床検査科は発展的に改組され、大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科の礎となりました。

### Q 大東医学技術専門学校の成績証明書、卒業証明書を今までどのように発行していましたか？ どんな点に苦労されていましたか？

大東医学技術専門学校に所属していた私（小笹）ともうひとりの職員（故人）は閉校後に総務課に移籍し、各種証明書の発行業務を含め閉校に伴う様々な残務処理を担当していました。閉校処理が終わった後も手作業での証明書発行を継続・運用していました。ごく一部しか電子化されていませんでしたので、学籍簿と成績簿を確認して、文字通り手作りしている証明書が大半でした。

Q 大変ご苦労があったように見受けられますが、当時から証明書発行の合理化について考えがあったのでしょうか？

そうですね。合理化もそうですが、専門学校から移籍した職員（2名）でないと証明書発行が出来ない状況で、属人化してしまっており、システム化を進めてどの職員でも証明書発行を出来るようにすることは、当時の課題でした。



大東文化学園 総務部 総務課  
関屋幸太さん

Q 学籍台帳のデータ化について、どのような懸念がありましたか？過去の台帳のほか、過去使用した発行システムのデータもお聞きしました。

台帳の記録の確認に手間がかかったことですね。各時代の事務担当者による微妙な記載方法の相違や、インクと鉛筆で濃淡を変えて記入していた箇所などをどう解説するかが大変でした。また、学則の変遷や成績評価基準の変更を確認することにも苦労しました。それらを整理して電子化しました。過去に使用していた証明書等の発行システムやデータベースは汎用性が低く、今回の電子化作業への流用は出来ませんでした。

Q 学籍台帳のデータ化にはどのくらい日数と人数を要しましたか？また、データ化作業を進める上で留意した点は何でしょうか。費用についてはいかがでしたか。

総務課の本業務担当は2名体制でしたが、実際の作業は創文社さんに業務委託をして全体の進捗管理も含めコーディネートしてもらいました。まず、前述の整理をし、同時並行で派遣スタッフ2名に学籍台帳から情報を入力してもらう方法をとりましたが、当初予定したとおり、おおよそ3ヶ月で入力完了しました。その後のデータ最終調整は時間がかかる事を想定していましたので、スタートから証明書発行システムの完成までかかった約1年という期間はスケジュール通りという認識です。また、50年以上運営された学校でしたのでそれなりの費用が掛かる事は見越していました。専任事務職員は他の業務もあり掛り切りにはできませんでしたので、派遣スタッフと職員の橋渡しとして創文社さんがコーディネートしてくれたのは、とても助かりました。ミーティング後に議事録レジュメを送って頂いていたのも助かりました。

Q 証明書発行システムを、専用システムでなく、エクセルとワードで作った利点は何ですか？

エクセルとワードにしておけば、後々の汎用性が担保されると思っていました。特殊なシステムは長い目で見た時にメンテナンスなどが厳しいなと思ったのです。専用システムになってしまうと結局属人化してしまう懸念もありました。ワードとエクセルであれば誰でも操作できます。エクセルの関数もそんなに複雑ではなく、生の成績データからワードの差し込み印刷までがシンプルで分かりやすいのも良い点です。証明書の様式変更が将来あったとしても、テンプレートになるワード文書と、エクセル文書上の関数変更で対応可能です。また、いざという時にメンテナンスが可能であるのも心強いです。エクセル・ワードが元であれば色々な業者が対応可能です。

Q 現在稼働している「大東医学技術専門学校 証明書発行システム」に満足されていますか？

満足しています。前述のとおり、手作業の比重がぐっと減り、費やしていた時間も短くなり、業務効率化を図ることができました。今は法人本部の総務課が証明書を発行していますが、将来的には業務の移管もあるかもしれませんので、学内の誰でも証明書発行業務ができるようにマニュアルをもっと分かりやすく整備したいと考えています。また、自動発行機での証明書申請用紙の購入や、コンビニでの申請手続きも検討を始めています。



本日はお忙しいところ、インタビューにお答えいただきありがとうございました。